

# 令和3年度 八幡田んぼアート



小さな谷川の底を写した二枚の青い幻燈です。

宮沢賢治作「やまなし」より

一、五月

二足の蟹の子供らが青じろい水の底で話していました。『クラムポンは笑ったよ。』『クラムポンはかぶかぶわらったよ。』  
上の方や横の方は、青くらく鋼のように見えます。

つうと一足の魚が頭の上を過ぎて行きました。魚がそこら中の黄金の光をまるつきりくちやくちやにしたり、ゆっくり落ちて  
いてひれも尾も動かさずに水にだけ流されながら黒くしずかに底の光の鋼の上をすべりました。

『お魚は……。』その時、青びかりのまるでぎらぎらする鉄砲弾のようなものが、いきなり飛込んで来ました。それっきりもう  
青いものも魚のかたちも見えず光の黄金の鋼はゆらゆらゆれ、泡はつぶつぶ流れました。

お父さんの蟹が出てきました。『どうしたい。ぶるぶるふるえているじゃないか。』『お父さん、今おかしなものが来たよ。青  
くてね、光るんだよ。はじがこんなに黒く尖ってるの。それが来たたらお魚が上へ登って行ったよ。』『お父さん、お魚はどこへ行  
ったの。』『魚はこわい所へ行った。』『こわいよ、お父さん。』『心配するな。ほら、樺の花が流れて来た。きれいだろう。』

泡と一緒に、白い樺の花びらが天井をたくさんすべって来ました。光の網はゆらゆら、のびたりちぢんだり、花びらの影は  
しずかに砂をすべりました。

二、十二月

蟹の子供らはもうよほど大きくなり、その景色も夏から秋の間にすっかり変わりました。冷たい水の底までラムネの瓶の  
月光がいっぱいに透きとおり、あたりはしんとしたただいかにも遠くからというように、その波の音がひびいて来るだけです。  
『やっぱり僕の泡は大きいね。』『大きかないや、おんなじだい。』お父さんの蟹が出てきました。『お父さん、僕たちの泡ど  
ち大きいの』『それは兄さんの方だろう』『そうじゃないよ、僕の方が大きいんだよ』弟の蟹は泣きそうになりました。

そのとき、ドブン。黒い大きなものが、天井から落ちてずうっとしずんで又上へのぼって行きました。キラキラッと黄金のぶ  
ちが光りました。そこらの月明かりの水の中は、やまなしのいい匂いでいっぱいでした。三足はぼかぼか流れていくやまなし  
のあとを追いました。間もなく水はサラサラ鳴り、やまなしは横になって木の枝にひっかかってとまり、その上には月光の虹が  
もかもか集まりました。

『おいしそうだね、お父さん』『待て待て、二日ばかり待つとおいしいお酒ができるから、さあ、もう帰って寝よう、おいで』  
波はいよいよ青白い焰をゆらゆらとあげました、それは又ダイヤモンドの粉をはたいているようでした。

私の幻燈はこれでおしまいであります。



巡るたび、  
出会う旅。  
東北 東北  
デスティネーション  
キャンペーン  
2021.4.1~9.30

花巻市公認地域キャラクター  
フラワーロールちゃん



自然と風土に恵まれた花巻

『ようこそイーハトーブへ』

「東北DC（東北デスティネーションキャンペーン）」とは、東北6県の自治体や観光関係者とJR6社などが一体と  
なって行う大型の観光キャンペーンです。東北の魅力を広く発信することによって東北観光のブランド化を推進する  
ことを目的としており、花巻市では「八幡田んぼアート」が見どころの一つとなっています。